

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0174300350		
法人名	医療法人社団田中医院		
事業所名	グループホームすずらん・らいらく(すずらん)		
所在地	厚岸郡厚岸町門静1丁目69番地		
自己評価作成日	平成27年1月27日	評価結果市町村受理日	平成27年3月19日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail 2014 022 kani =true&JigyosyoCd=0174300350-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジエント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成27年3月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療法人社団という事でドクター、ナースの往診を受ける事ができ、安心した毎日を過ごす事ができると利用者様、御家族から信頼を受けております。また、入居者様の自立支援として法人内のリハビリ施設や別ユニットのリハビリ室を利用し、パワーリハビリやセラバンド等の運動を行う事で身体機能の維持・向上に努めております。また、通所利用者様との交流や共同作業、避難訓練や夏祭り等の行事へ地域の方々に参加して頂く事で社会とのつながり、参加の場として頂いております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<医療との連携>
毎日、法人内の医療連携の往診を受け、状態の変化についても細かく報告し、医師の指示の下、適切な医療が受けられ法人内看護職員との医療相談で利用者の健康管理に取り組んでいます。また、隣接した事業所で行われている機能訓練に参加し、母体医療法人と結んだWEBカメラでOT監修の運動メニューを利用者に個別に提供しており、本人、家族から安心した生活が送れると評価されています。

<職員を育てる取り組み>
管理者は、職員の学習意欲を高める為に、外部研修や毎月の法人内の学習会に積極的に参加できるよう、必要性の高い職員や希望する職員には勤務調整を行い、積極的に参加を促し、職員会議で伝達講習を実施して職員全員が共有しています。また、職員会議、法人学習会で職員の資格取得の推奨・援助に取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	●	1. ほぼ全ての利用者の	●	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらい		2. 家族の2/3くらい
			3. 利用者の1/3くらい		3. 家族の1/3くらい
			4. ほとんど掴んでいない		4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	●	1. 毎日ある	●	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある		2. 数日に1回程度
			3. たまにある		3. たまに
			4. ほとんどない		4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	●	1. ほぼ全ての利用者が	●	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが		2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが		3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない		4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	●	1. ほぼ全ての利用者が	●	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが		2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが		3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない		4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	●	1. ほぼ全ての利用者が	●	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが		2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが		3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない		4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	●	1. ほぼ全ての利用者が	●	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが		2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが		3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない		4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	●	1. ほぼ全ての利用者が		
			2. 利用者の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない		
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)				
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)				
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)				
66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)				
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う				
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域の中で暮らし、楽しみを持ち笑顔で生活できることを目標としケアに努めている。また、管理者・職員が周知しやすいよう掲示している。	事業所独自の「住み慣れた地域の中で暮らし、楽しみを持ち笑顔で生活できること。」を理念として朝礼時や職員会議を通じて話し合い、理念を共有し、その実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散策で顔見知りの関係になったり、避難訓練・夏祭り等行事の際は地域全体にチラシを配布し呼びかける事で足の運びやすい環境作りを心掛けている。	事業所の「夏祭り」で獅子舞やフラダンス、歌謡ショー等での地域ボランティアとの交流や避難訓練で地域との交流を図り、普段の生活の中でも散歩や外気浴等で日常的な交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	定期的に行っている行事や、運営推進会議に参加して頂き実際にに関わり、質問して頂く事でお伝えしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	御家族、地域の方に参加して頂き、貴重な意見、学習内容、情報等反映できるようサービス向上に努めている。	運営推進会議を年6回開催し、事業所の取り組みや現状報告、火災避難訓練参加協力、認知症サポーター養成等具体的内容を話し合い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	包括定期連絡会議等に積極的に出ること町担当者と相談しやすい関係があり、運営推進会議、行事案内を行い参加して頂いている。定期訪問の介護相談員と改善すべき点を話し合える環境ができています。	地域包括会議や日常業務の相談等情報交換を行い、協力関係を築くよう取り組んでいる。また、毎月、町の介護相談員が来訪し、取り組みを伝えながらケアの質の向上に向けて取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修会に積極的に参加を促し、参加した職員による伝達会を開催する事で全職員に周知を促している。安全面でベットの柵等必要な際は、十分に検討した上で書面にて家族より了承を得ている。	指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を接遇等の内部研修会を通じて正しく理解しており、高齢者虐待や身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	グループホーム協会が行う研修への参加、又法人内でも虐待に対する学習会を行い、各職員の意識をたかめている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	専門知識として学ぶ機会を設け、制度について理解し、支援できるように話し合っているが全職員に浸透出来ていないのが現実なので今後は、講習会に参加していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退去時の説明は、時間を掛け丁寧に説明し理解の確認をしながら行っている。いつでも気軽に相談出来る関係作りを心掛けている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月に一度町から介護相談員の方が来所され、利用者様の声を聴いて頂いている。何かあった際には、その場で伝えて頂き会議で話し合い反映している。	来訪時には意見や要望等聞く機会を設け、相談しやすい雰囲気づくりを心掛けており、外部者へ意見や苦情等を言い表せるように苦情等の相談窓口を掲示している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議を職員主体で行ない、意見の出しやすい環境を作り、意見や提案を確認し即日会議録で必ず周知出来るように取り組んでいる。	毎月の職員会議やカンファレンス、日々の業務を通じて職員の意見や要望、提案を聞く機会を設け、運営に反映できるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員会議、法人学習会で職員の資格取得の推奨・援助、必要に応じ研修会の参加を勧めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内事業所の定期的な伝達会、外部の研修に参加し自己研磨に努めている。研修会の報告を職員会議で行い伝達している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管内の協議会に参加し、情報の共有、必要に応じて実践研修を行い、意欲向上に努めている。改善すべき項目については職員会議で話し合いを行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談を受けた時点で、必要に応じ訪問、生活状況の情報収集に努め、環境変化による不安の軽減に努めている。又、家族の情報を基に本人にとって心地よく住み慣れた環境を提供できるよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前訪問の際に、本人・家族より困っている事、悩んでいる事を十分に聞き、問題解決にむけ共に話し合うよう努め必要であれば入居までに何度も場を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族が必要としている事を十分に聞き入れ、事業所としての出来る限りの支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生経験豊かな利用者様の知識を尊重し、それぞれに得意な事を教えて頂き、感謝の気持ちを伝えながら共に楽しんで生活を送っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の思い、過去の生活歴を職員が理解し本人の状況の把握、本人の安心が得られるよう相談している。また、問題解決についても連絡を取り合い行っているとともに、行事等に参加を促し楽しみを共有している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の施設を有効利用し、本人の要望に出来る限り添ったり、知人が来訪しやすいように配慮している。	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所を忘れる事がないよう、自宅への訪問や理美容院等の馴染みの店を利用できるよう支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の主張によりトラブルになりそうな時は、職員が仲介に入り、関係性が円滑にまわるよう職員間で情報の共有に努め、双方の要望に添うよう努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後は、イベントの参加呼びかけを意識的に行っており関係性の継続を心掛けている。(年賀状送付等)		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活スタイルを尊重し、要望に添った対応を行っている。また、言葉や態度で訴えられない方に対しては表情や仕草等からも気持ちをくみ取り、出来る限り本人らしい生活を送れるよう援助している。	日々の会話の中から本人の希望や意向を傾聴し、家族からも聞き取りを行い、出来る限り本人らしい生活を送れるよう職員間で検討し取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人及び、家族や他サービス提供者より生活歴等の情報収集に努め、職員間で共有し本人が生活しやすいよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の一日の流れは出来ており、本人の様子、表情から状態を把握し各々に一つでも役割を持って生活して頂けるよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護支援専門員指導のもと、ケア担当がアセスメントを行いカンファレンスで職員の意見を話し合い具体的な計画を立てている。家族の意見、思いも反映できるよう来訪時、定期的な電話等で情報収集を行っている。	介護支援専門員指導の下、ケア担当職員を中心にアセスメントを行い、カンファレンスを通じて職員の意見やアイデアを反映するよう取り組んでいる。また、本人、家族からの意見や思いを大切に、医師・看護師の関係者の意見も取り入れた現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿って個別記録に記入しており、心身の変化や気付いた事、ケアの実践・結果も記入し適切な申し送りを心掛けている。また、介護計画の見直しの際にも生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院、送迎、他事業所の行事参加など個々の要望に添っている。認知症通所介護も事業の一環として行っており、多機能性を生かした支援が行われている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の公共施設を利用したり、法人内事業所の行事や活動に参加し楽しみを持てるように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人内の医療連携があり毎日往診を受けている。状態の変化についても細かく報告し、適切な指示を頂いている。休日については、連絡がとりやすい体制ができている。	本人及び家族等の希望するかかりつけ医となっている。また、母体の医療法人の往診や看護師との連携で適切な医療を受けられるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内看護職員と気軽に相談できる関係ができており、細かな医療相談を日々行うことで適切な医療を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、生活情報の提供を行う。また、入院中は家族からこまめに状況の確認を行う事で、情報の共有を行っている。入院環境の変化で認知症状が進行しないよう状態に応じ入院先の医療従事者と相談できるよう心掛けている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	身体状況を常に報告し、事業所で出来ることを説明し不安の無いよう働きかけている。定期的にご家族に対して、主治医との医療相談の機会を設けている。	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら職員間で方針を共有している。また、母体医療法人と連携して支援できる体制が整っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に確認しており、状態に応じ対策を職員間で話し合っている。急変の対応を経験していない職員もあり、緊急時のマニュアルを用意し周知徹底している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理者がおり、年2回消防立ち会いの下、避難訓練を利用者様と共に行い、安全に暮らす為の意識を持っている。	消防署の協力を得て実施する年2回の火災避難訓練には、自治会役員や近隣住民、家族等が参加している。また、スプリンクラーや火災報知器、通報装置の設備が完備し、直火の使用は無く、緊急時の備えに自家発電も設置している。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の尊厳、羞恥心に配慮しながら、日々のケアに努めている。	記録などの個人情報の扱いは、十分に注意しており、接遇等の法人内研修会を行い、一人ひとりの尊厳や誇りを損ねないような言葉かけや対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の要望に合わせて行動し本人の出来る力を見守っている。希望に添うように選択肢を用意し本人の意思を尊重出来る環境作りを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先にならず、利用者様本位を念頭におき職員間の連携を図っている。小さな動きも見逃さないよう観察している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行きつけの美容院に継続してかかる事ができるよう、出張サービスを依頼しており、本人の希望の際には出向く事もある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	刻み食でも見た目、色合い形を工夫し食欲をそるよう心掛けている。材料を切り、盛り付けなど一緒にに行っている。	本人の力を活かして食事の準備、後片付け等楽しんで行えるよう取り組んでいる。また、その日の体調に合わせておかゆやきざみ食、栄養摂取が不十分な利用者には医師の指示の下、経腸栄養剤等を栄養バランスを考えながら提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の体重や体質に合わせており、嚥下困難、咀嚼に問題のある方については法人内OT・PTの助言を頂いている。又、栄養士から指導を受けアドバイス頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアに努めているが、うがいの出来ない方には、水分を多く飲用し対応している。ケア用具は個別に用意し汚れに応じ使い分けている。義歯の洗浄、管理は行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンは職員が把握しており、個々に合わせた時間誘導や、食事内容も合わせスムーズな排泄を行えるよう対応している。	排泄チェック表で排泄パターンを把握し、スムーズに排泄できるよう取り組んでいる。また、トイレ誘導はさりげない声掛けや羞恥心への配慮を心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動と牛乳の提供と多めの水分飲用に努め、自然排便できるように努めている。献立に繊維質の食材を取り入れているが排便のない時は看護師に医療処置をして頂いている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	可能な限り本人の希望に合わせて、入浴して頂けるように支援している。体調不良等で入浴出来ない時は、清潔保持のため清拭を行っている。	一人ひとりの希望やタイミング、生活習慣に応じて支援し、本人が楽しく安心して入浴できるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動、身体状況・心理面等問題がなかったか原因を職員で確認しながら、休息に向け対応している。不眠時は、温かい飲み物を提供し安眠の促しを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医の指示に従い、薬の変更時は周知できるよう業務日誌に記載し連携を図っている。処方箋をファイルし種類、副作用を確認しやすいようにしている。服薬については、確実に飲み込むまで見守っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	茶碗洗いや洗濯たたみ等、個々に声掛けし一人一人の役割と意識をして頂いている。得意な事は、教えていただき感謝の言葉を伝えるよう心掛け出来る事については、率先し行って頂いている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常の会話の中で、行きたい場所や懐かしい場所を聞き自宅訪問、外食、ドライブなど希望に添うよう配慮している。その際出来る限りご家族へもお誘いの声掛けを行っている。	自宅への訪問やお墓参り、地域のお祭り見物や外食、別保公園への花見など普段では行けない場所への支援や散歩、買い物、東屋での外気浴、野菜の種植えや花壇の手入れなど戸外に出かけられるように支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる人は、買い物・外食など自分の財布から支払っており楽しみの一つとなっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話・年賀状等の希望に添った対応を心掛けている。毎月お便りを発行し、日常生活の写真を送る事でご家族に安心感を持って頂いている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせ装飾を変えたり、季節の花を飾り落ち着く雰囲気を作っているが、異食行為・混乱などしないように工夫している。又利用者様によって、装飾を持ち帰られる事もあるのでその都度対応させて頂いている。	共用空間には、季節毎の飾り付けや行事参加の写真の掲示等で生活感や季節感を採り入れて、本人が居心地良く過ごせるよう工夫している。また、利用者にとって不快や混乱を招くような気になる臭いや光の強さは感じられない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間の形態を多様な形にして各々に過ごしやすい環境作りを心掛けている。気の合う仲間と過ごせるように配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談し、自宅で使用していた家具、手作りの品を持ち込み、自宅にいた時の趣味など居室に掲示したりする事で、以前の生活を継続できる環境作りを行っている。	居室には、本人や家族と相談しながら、自宅で使い慣れた家具や寝具、趣味の手作りの作品や家族の写真などが持ち込まれ、本人が居心地よく過ごせるような空間になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居間スペースを利用し意向に添った対応を行っている。利用者様の状態の把握と安全確保に努めている。		

(別紙4-1)

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0174300350		
法人名	医療法人社団 田中医院		
事業所名	グループホームすずらん・らいらつく(らいらつく)		
所在地	北海道厚岸郡厚岸町門静1丁目69番地		
自己評価作成日	平成27年1月30日	評価結果市町村受理日	平成27年3月19日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action kouhyou_detail 2014 022 kanjimeiji.html&JigyosyoCd=0174300350-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成27年3月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療法人ということもあり毎日医師、看護師の往診がある事で医療と介護の連携が密にとれており異常の早期発見、利用者様の健康を維持できております。また、法人内の作業療法士、理学療法士指導のもと、パワーリハビリ、セラバンド等、毎日専用の運動場でリハビリを行なう事でハリのある活き活きとした生活を送って頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

[illegible]

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掘んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掘んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関 係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の 理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	居間、廊下、運動場等いつでも目につく所に掲示し、職員一人一人が常に念頭に置いて仕事に励んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	グループホームでの夏祭りに見に来て頂くだけでなく、踊りや歌等で参加して頂く事で、利用者様に馴染みのある郷土芸能を楽しんで頂いている。また、自治会に入る事で地域の行事に参加したり、自施設を知って頂く努力をしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人内で認知症サポーターの研修会を行ない全職員がサポーターとなり、そのことを他事業所の家族報告会や運営推進会議等で伝えていつでも相談を受けれるようにしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族や保険者だけでなく、地域の方にも参加して頂けるよう行事に合わせる等し、より多くの意見、ご指導を頂くよう努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	包括会議等に積極的に参加したり、こちらの行事や運営推進会議等にも参加して頂く事で良好な関係を築いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	著しい認知機能の低下により危険の認識が無い方については家族の同意のもとベッド柵を使用している。また、玄関の施錠については外部からの危険防止の為に施錠を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内外の研修会に積極的に参加する事で職員一人一人の虐待に対する意識を高め虐待防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や成年後見制度が必要とされるケースが今までなかったが、今後は必要となる事も考えられるので職員全体で学習していく必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際ご家族が理解するまで時間を掛けてゆっくり説明し十分納得して頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や行事、ご家族の来所の際気軽に意見や要望等を言える雰囲気、環境作りを心掛け、頂いたご意見の反映に努めている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議等は職員主体で行なうようにし、小さな意見でも出るようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	学習会や研修会に気軽に参加できる環境整備や、各種資格に対する手当等職員一人一人がやりがいをもって働けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で定期的な学習会を開催しており出来るだけ多くの職員が参加できる環境を作り個々のスキルアップをはかっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	協議会の研修会に参加し、得た情報はミーティングで他職員に伝えサービスの質の向上を図っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の面談を密に持ち、可能であればご家族と見学にも来て頂く事で不安なく入居出来るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人だけでなくご家族とも十分に話す機会をもち、ご家族の思いを把握し関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用予定者、家族に見学に来てもらい、十分に説明すると共に、本人、家族が必要としている事を、事業所として出来る限りの支援を行なう様努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事等可能な限り共に行い、今までの人生経験から教わるという尊敬の姿勢で接している。また、行事毎等は職員も一緒に楽しむよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の誕生日やホームでの行事に参加を促し家族との関係が途切れず良い関係が継続出来るよう支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容室や商業施設等入居以前に通っていた場所を継続して使えるように努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	手伝い等一緒に行なう事で、互いに助け合う関係が出来ており、意欲の向上に繋がっている。また、利用者が孤立しないよう、スタッフが間に入り、他者との関わりを持つきっかけ作りをしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスを終了された方本人だけでなくご家族に対しても行事等の案内を出し気軽に足を運んで頂けるよう働きかけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	関わりの中で、本人の声に耳を傾け把握するよう努めている。声に出して訴えられない方に対しては、表情や仕草を感じ取るように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族のみでなく知人や以前使用していた他施設等から幅広く情報を集める事で、本人らしい暮らしを継続出来るよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムを理解し、その時の心身状態を観察している。また、本人の趣味や特技を把握するよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の要望や家族の思いを理解し取り入れ、月に一度全職員でカンファレンスを行っている。また、身体状況や精神状況が著しく変化した際は都度見直しを行なっている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録や、スタッフの意見を取り入れ評価を実施している。全職員が情報を共有できるよう、必要な事は業務日誌に必ず記載している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	共用型デイサービスを開始後、多機能性を活かした支援が出来ている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町の図書館バスを利用したり行事の際に地域の芸能を呼んでいる。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療法人という事もあり法人内医師の診療を毎朝、看護師の往診を毎日受ける事が出来ている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師には毎日往診に来て頂き、気軽に相談出来る信頼関係を築いている。 医師、看護師と連携を密にとれる体制が確保されている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には生活情報、既往歴等の情報を提供している。家族、病院共にこまめに連絡を取り合い早期退院を目指している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族の意向を大切にす為、定期的な医師、家族の面談を持ち意向を確認している。急変時にも医療機関と連携を計り支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者一人一人の起こりうるリスクについて確認しミーティングで話あっている。また、緊急時対応マニュアルを作成したり、救命講習を受ける事で緊急時に備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を地域の方や利用者で行い、安全に暮らせるよう取り組んでいる。また、近隣の方に緊急時連絡網に登録して頂き、協力を頂いている。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳についての学習会へ参加したり、職員会議で話し合う事で日々人格の尊重を念頭に置くよう心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が意思決定しやすい声かけや雰囲気作りを心掛けている。意思疎通の難しい方については表情や態度で気持ちをくみ取る努力をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れはおおよそ決まってはいるが、本人の意志や体調を都度確認しながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望により訪問理美容のサービス利用や、外出により馴染みの床屋、美容室を利用している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下ごしらえや盛り付け、片付け等その人その人が出来ることを行なっている。時には利用者同士一緒に行なう事で刺激になり、意欲向上に繋がっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量を毎日必ずチェックし毎月体重測定を行なっている。また、栄養バランスは管理栄養士作成の献立を使用する事で確保している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入床前は必ず口腔ケアを行ない義歯の方は洗浄剤に付けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各利用者の排泄パターンを全職員が理解している為、排泄チェック表を使用し適切な時間にトイレ誘導を行なっている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や間食にて繊維質の物を多く摂るようにする等工夫している。また、リハ等で定期的に身体を動かす事で便秘の予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の意思を確認し、出来る限り希望した時間に入浴出来るよう心掛けている。誘う際も無理強いせず職員を変えたり日を改める等で対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	無理なく出来るだけ日中の活動を促し夜間に良眠出来るよう働きかけている。夜間も安眠できるような光や音の調節を行なっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬情報のファイルを用意し職員がすぐに内容を確認出来るようにしている。誤薬を防ぐため準備とチェックの2重確認を行ない、服薬の際は飲み込む所まで必ず確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの興味のあるものを把握し、意欲を引き出し楽しみながら行なえることを提供しよう心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望や職員の働きかけにより、ドライブや外食等に行っている。また、墓参りや自宅に行きたい等の希望には、御家族に伝え協力し合い外出できるよう努めている。その他の要望にも職員間で検討し対応するよう努めている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理出来る利用者様には所持して頂いている。また、職員と一緒に買い物に出かけ購入して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話の希望があれば気兼ねなく行えるよう努めている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられるような壁装飾にしたり利用者が落ち着き、安心出来るような草木や花を植えてリラックスした生活を送れるよう努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間や食卓、窓辺等に椅子を用意しその時その時の気持ちで自由に過ごして頂ける様に工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所の際に可能な限り本人の使い慣れたものを持参して頂くようお願いさせてもらい入居後も本人の好む物や御家族の写真等を飾り心地よく過ごせるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態を把握し、安全確保と自立への配慮に努めている。		

目標達成計画

事業所名 グループホームすずらん・らいらつく

作成日: 平成 27 年 3 月 11 日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	21	集団に入る事が難しい利用者様に対して上手くアプローチすることが出来ず孤立していることがある。	利用者様がストレスと感じない程度にさり気なく皆と過ごす事が出来るようになる。	通勤時や外気浴の際挨拶、声掛けを徹底し職員一人一人が意識付けを行い、友好的な関係作りを行っていく。	12ヶ月
2	38	個別リハビリを取り入れた事により、利用者さまと過ごす時間が取りにくくなっている。	少しの時間でも利用者様とゆっくりお話しをし、向き合える時間を確保する事で希望・要望を聞き支援していく。	必要の際は業務の見直しを図り、利用者様に負担の掛からない方法を探ると共に今まで以上に利用者様の表情・行動に目を配り理解し支援していく。	12ヶ月
3	13	定期的な伝達報告会、学習会に参加し学ぶ機会があるが、個々の認知症についての理解に差がある。	職員一人一人が知識・能力を身につけ、チームとして同じ考えを持てるようになる。	法人内外での学習会等にも積極的に参加して頂きそこで学んだ事を、ユニット内で各職員に伝達してもらうことで全職員で周知していく。	12ヶ月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。